

第340回 大阪大学臨床栄養研究会 (CNC)

日時：平成25年9月9日(月) 18:00

場所：大阪大学医学部講義棟B講堂

テーマ『 ω 3系脂肪酸による心血管保護：脂質管理を超えた効果』

ω 3系脂肪酸を豊富に含む魚の摂取量が多い日本は心筋梗塞が少ないと言われて来ましたが、食生活の欧米化に伴い、心筋梗塞の増加と発症の若年化が起こっています。

今回の研究会では、 ω 3系脂肪酸の重要性に関する新たな知見を、

国立循環器病研究センター・心臓血管内科・部門長 安田 聡 先生 にお話頂きます。

多くの方々のご参加をお待ちしております。

講演内容

我が国の病院外心停止(突然死)の発生件数は年間約10万件と推定され、交通事故による死者数をはるかに凌駕する。突然死の主な原因は、プラークの破綻と血栓形成の結果主要冠動脈が閉塞する急性冠症候群に加えて、2次的な不整脈の頻度に関しても高率であると推定されている。また日本人においては、冠攣縮の関与も示唆されている。肉食を主体とする近年の高脂肪・高カロリーの欧米型食生活が虚血性心疾患増加の一因ともいわれ、魚などの日本型食生活への回帰が提言されている。

魚には ω -3系多価不飽和脂肪酸であるEPA(エイコサペンタエン酸)やDHA(ドコサヘキサエン酸)が多く含まれている。介入研究(GISSI-Prevenzione Trial)では、EPA治療群は対照群に比し致死的心筋梗塞症・突然死が有意に抑制されしかも20-30%減と高いリスク回避率を示した。日本人においても高いn-3多価不飽和脂肪酸摂取(The Japan Public Health Center-based (JPHC) study)やEPA投与(Japan EPA Lipid Intervention (JELIS) study)により冠動脈イベント発症率が有意に低下することが報告されている。また ω -3系多価不飽和脂肪酸には、心房細動や心不全発症抑制効果など、様々な心血管系に対する興味深い作用も認められている。

今回の講演では、以前から知られている魚油： ω -3系多価不飽和脂肪酸の種々の作用を紹介するとともに、近年明らかになった脂質管理を超えたEPAの心筋梗塞症・突然死に対する心血管保護効果の分子機序についても解説する。

世話人：生体情報科学講座 木原進士

E-mail: skihara@sahs.med.osaka-u.ac.jp

次回、第341回 CNC は、消化器外科学 I 森 正樹先生のお世話で

平成25年10月21日(月)に開催予定です。